総合工学委員会原子力安全に関する分科会
社会のための継続的イノベーション検討小委員会
第２５期・第８回議事要旨

令和４年７月 27 日
作成　山本章夫

１．日時　令和４年７月 27 日（金）15:00～17:00
２．会場　遠隔会議　オンライン開催
３．出席者　松岡委員長、小野、白鳥、宮野、山本、澤田、関村、矢川（越塚、佐倉、吉村、中村欠席）
４．　配付資料
　資料１　前回議事録
　資料２　報告案「社会のための継続的イノベーション」
　資料３　イノベーションで目指すものはなにか(宮野案)
　参考　前回議事メモ

５．議事
１）議事録確認（資料１）
◎議事録を確認した。コメントなく了承された。

２）イノベーションで目指すものはなにか(宮野案)についての議論
◎資料３について意見交換を行った。以下に内容を示す。
・第３章では、基礎・基盤的な話をしているが、第４章での事例において、誰が取り組むかが見えない。誰がどのように取り組むかを明確にしておかないと、今回の議論は社会の役に立たないのではないか。
・システム・イノベーションが何か、ということが分かりにくい。これを実現するためには、誰が何をやるのか、ということを明確にする必要がある。産官学といった従来のカテゴリー分けが既に時代遅れであり、実施主体としてこのような区分にこだわらないアプローチが必要になるのではないか。
・イノベーションにおいて、市民の意見を反映出来る形で進められるように提言が出来ると良いのではないか。
・イノベーションを進めるためには、公開の意味合いを見直す必要がある。官が用意した案を「公開」して、「公開で議論する」進め方に無理が生じているので、この点について指摘をする必要があるのではないか。
・日本は「課題先進国」。日本に適した知識基盤構築や可視化のモデルはどうあるべきか？ここを指摘する必要があるが、社会の変容を含めるものなので、課題の設定は技術革新とは別の観点から出てくるはず。

・Solution を与えることが重要、ではなく、問題を解消させることも重要。こういうやり方がイノベーションになるのではないか。いわゆる超学際研究(Trans-disciplinary)の方向性。

3）報告案「社会のための継続的イノベーション」についての議論

◎資料 2 について意見交換を行った。以下に内容を示す。

・4 章については、3 章で取り上げた三つの課題をベースにして整理してはどうか。

・課題の設定をこの三つにするという点については、さらに検討が必要。例えばガバナンス、という概念はどう扱うかなど。

・これまでの議論を踏まえて、第 3 章については、議論を整理し、追記を試みる。

・社会ニーズが起点になっているが、誰がどういう形でこれを取り込んで(実現して)いくのか、という点も問題。

・コロナ禍については、国が方針を決める→国民が従うという単純なモデルではない一例。リスク認識などを含め、エコシステムが変わって行っている例である。

◎本日の意見交換を踏まえて、内容の整理と更新を行う。

4）今後の進め方について

◎　意見交換の内容に基づき、内容の整理と検討を進める。

◎　次回は委員長が別途メールで日程を調整する。

以上